

心臓血管外科、呼吸器外科

診療科目：心臓血管外科、呼吸器外科

診療科担当研修責任者名：土田 正則（心臓血管外科、呼吸器外科教授）
診療科連絡先担当担当者名：岡本 竹司（心臓血管外科、呼吸器外科総括医長）

連絡先：su2sec@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：20人。17年度：19人。18年度：10人。19年度：7人。20年度：3人。21年度：1人。22年度：1人。
23年度：1人。24年度：1人。25年度：0人。26年度：3人。27年度：3人。28年度：1人。29年度：2人。
30年度：4人。

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：5人以内

◇◇◇ 学会認定専門医数 ◇◇◇

外科学会専門医12人、心臓血管外科4人、呼吸器外科3人

◇◇◇ 学会認定指導医数 ◇◇◇

日本胸部外科学会指導医1人、日本外科学会指導医1人、日本呼吸器外科学会指導医2人

◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定 ◇◇◇

日本外科学会指定施設、心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設、呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設、ステントグラフト実施施設

診療科の概説・特徴

新潟大学に於ける胸部外科手術は昭和20年代の肺結核手術や閉鎖式心臓手術に始まる。昭和38年に心臓血管外科手術、呼吸器外科手術を担当する現在の形の外科学第二講座が誕生し、以来、新潟県内を中心に最先端で高度の技術、安全な手術を提供し続けてきた。小児心臓外科では新生児複雑心疾患手術の症例数も多く、国立大学病院屈指の手術件数に達している。また、成人心臓血管外科では従来の開心術に加え、ステントグラフト治療も数多く行っている。呼吸器外科においては切除困難症例の手術に積極的に取り組む一方、鏡視下手術などの手術の低侵襲化にも重点を置き、肺葉切除では完全鏡下手術が標準的な手技となっている。

診療科研修の特徴等

循環器外科と腫瘍外科を中心とした呼吸器外科という異なる面を持つ診療を行っているが、研修期間では研修医が興味を持っている分野で研修することも、双方の研修を行うことも可能である。チーム医療が基本であり、指導医の下に修練医と研修医というチーム構成になる。常に指導医や修練医と診療を行い、外科的な考え方や手技を重点に研修をする。但し、研修医であっても個々の能力によっては、指導医の指導のもとに術者として手術を行う機会を与える。将来、外科専門医取得を目指す研修医にとっては、当科での研修期間で、当科の分野の手術の必要症例数を経験することが可能である。心臓血管外科は循環器内科、小児心臓内科、放射線診断科との検討会、呼吸器外科は放射線診断科・治療科、呼吸器内科、病理部との検討会を定期的に開いており、それぞれの分野の知識を深めることができる。

整形外科

診療科目：整形外科全般、四肢脊椎外傷、股関節外科、膝関節・スポーツ医学、骨軟部腫瘍外科、関節リウマチ、脊椎・脊髄外科、手の外科、骨粗鬆症

診療科担当研修責任者名：遠藤 直人（整形外科教授）
診療科連絡先担当担当者名：谷藤 理（整形外科総括医長）

連絡先：tanifuji@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：17年度：1人。18年度：1人。19年度：3人。20年度：1人。21年度：4人。22年度：3人。23年度：1人。
24年度：3人。25年度：0人。26年度：1人。27年度：2人。28年度：4人。29年度：4人。30年度：3人。

受入期間：2ヶ月以上

同時受け入れ可能数：受け入れ月別に人数変更あり

◇◇◇ 学会認定専門医数 ◇◇◇

日本整形外科学会専門医26人、日本整形外科学会認定リウマチ医2人、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医8人、日本体育協会認定スポーツドクター2人、日本リウマチ学会専門医2人、日本リハビリテーション医学会専門医1人、日本手外科学会専門医1人

◇◇◇ 学会認定指導医数 ◇◇◇

日本リウマチ学会指導医2人、日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医4人、日本リウマチ学会ソノグラファー1人

◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定 ◇◇◇

日本整形外科学会認定施設、日本リウマチ学会認定施設、日本手外科学会認定研修施設、日本リハビリテーション医学会

診療科の概説・特徴

新潟大学整形外科学講座は大正6年（1917年）本邦で4番目に開講し、100年目を迎える国内有数の伝統教室です。伝統を大事にしながらか最新の治療も導入し、整形外科のすべての分野において高いレベルの治療を行っています。地域の中核施設として数多くの治療困難例の治療を担当しておりますが、外傷など多彩な疾患の治療も行っております。

診療科研修の特徴等

整形外科における基本的な診断、治療の実際を学んでいただくことを第一の目標とします。そのために整形外科のいくつかの分野にわたってバランス良く研修をしていただくこととなります。診療はグループごとに行っておりますので、このグループの一員として診療にあたってください。外傷例が搬入された際には、外傷治療のチームの一員として救急処置、手術の研修も可能です。期間中に可能な限り術者としての経験もさせていただいております。術前、術後検討会への出席、各診療班ごとの検討会への出席、抄読会、X線画像検討会、その他レジデント向けの講義などを行っており、短期間であっても整形外科に関する基礎的な知識や処置を研修していただけることを目標としております。希望に応じてリハビリテーションの研修も可能です。